

勉強する時に、何故私語

や飲食はダメなのか？

本当に情けない話だが、塾に来て自習しながら、私語をしたり、ガムを食べたり、またジューズを飲んだりする愚か者がいる。本当に「愚か」である。しかし、他の生徒に迷惑がかかるし、せっかく通塾してもらって愚か者のままほっとくのも申し訳ないので注意する。すると、徐々に変わってくれる。「若い」といっつのは素晴らしい。自分を変える柔らかさを残しているのだ。

さて、これから自習室を使う可能性のある予備軍もいるし、テスト前に自習にくる生徒もいるので、何故私語や飲食がダメなのか、教えておこう。まず第一の理由は、「真面目に自習している他の人の学習権を奪うことになるから。」
でも、きみは自分さえよければいいという人間だから、仕方ないのかな。第二の理由は、「きみが何より大事にしている『自分』の可能性を間違いなく閉ざすことになるから。」
でもでも、きみは「学ぶこと」や「勉強」に価値を置いていていないのだから、伸びなくても平気なのだろう。もし方が「自分を伸ばしたい」と思っているなら、エリを止めて、これから書くことを読みなさい。

一体、受験は孤独なものである。入試で問題を解いているとき、誰がきみを手伝ってくれるか？

解けなくて頭が真っ白になっているとき、誰が「落ち着け。きみなら大丈夫。」と励ましてくれるか？
そして、試験の50分間(センターの英国は80分間、東大二次は全科目120分間)をきみは脳目もふらず一心に打ち込まないといけないのである。

で、質問。50分や80分、あるいは120分集中する力をつけないといけないきみは、どこでその力をつけようというのか？
テストのときだけががんばりますというのか？
よくよく考えなさい。結論は明らかかなはずだ。部活と一緒に、毎日の積み重ねでしか力をつけられないのだ。自分には集中力がありません。あたり前だ。きみは集中する訓練をしてこなかったのだから。虫のいいことをいうな。だったら、いっそ一生集中できないまま人生を送ればいいじゃないか。



話をもちろつ。受験で、勉強で、
(そして実は他のことでも)成功したかったら試験時間と同じ時間を我慢してやらなければだめだ。歯を食いしばって取り組まないとダメだ。その時間は孤独に徹しないとだめなのだ。だから私語はいけない。飲食も禁止。集中する訓練を自分で中断してしまうことになるからだ。

但し、集中するには、何をやるかが明確にならないといけない。つまり、ここで計画が大事になってくる。少なくとも、「今日はこれとこれをやる」と決まっていけないといけない。そうしないといふしがんばったあと、次にやるのが思い出せず、まただらだらとした過ごし方になってしまう。中学生は、「合格へのパスポート」、高校生は「計画

ノート」を死守しよう。大事に大事に書いていくのだ。

自習室で私語や飲食をすることは、他の人の学習権をつぶすことである。そして、自分の可能性を閉ざし、集中力をつける機会を自ら放棄することである。本当はそんな生徒は塾に来てはいけないのだ。しかし、そんな生徒でも見所はきつとあるはず。だから、私達は注意をする。命懸けでこの文を読んで考えを変えなさい。自分では注意しづらいたら、講師に訴えること。これは、チクリではない。そこにいる愚か者によくなくてもらうために必要なことなのだ。さあ、私語と飲食を開放して、がんばれ。因みに自宅で勉強する時も、私語・飲食厳禁は同じだから、気をつけること。
(小林(健))

小テストについて

創学舎では各教科ともほぼ毎回小テストを実施しています。国語は漢字テスト、英語は教科書英文テスト、数学は計算テストなどです。小テストは基本的に満点合格です。合格ラインを満点ではなく、少し緩くして達成しやすい合格点にすることも可能です。そうしたほうが合格しやすく自信につながる場合もあります。しかし、わざと厳しくすることに意味があるのです。



満点合格だと手を抜くことは出来ません。一問か二問ミスしても大丈夫だと思つと人間は油断をしま

す。普段の練習にもその気持ちが現れます。満点合格だと、直前に間違えた問題だけやっていても安心は出来ません。もしかしら、今まで出来ていた問題も出来なくなっているかもしれません。何か他の問題と混同しているかもしれません。あるいは漢字など正しく覚えていたと思っけていても、実は「とめ」や「はね」など間違えて覚えていたということ結構あるものです。また、普段の授業ではめったにないかもしれませんが、本番の入学試験の時は本当に緊張するものです。そうなること、漢字など普段はすらすら書けているものでも、緊張のあまりに度忘れしてしまつこともありえるのです。こう考えると、それまで出来ていた問題でも、これでもかこれでもかと繰り返し練習して、どんな状況でも出来るといつまで仕上げることが必要になってきます。つまり、小テストで満点を取るためには、緻密さが必要になることはおわかりだと思えます。

しかし、このように小テストを大事に思つてやっている受験生はまだ少ないようです。これは、我々講師が高校受験、大学受験を経験したからこそ実感できるものだと思います。受験の厳しさを味わっているからこそ、知識を身につけるのに妥協は許されな... 厳しき、緻密さが必要になってくることを体験して理解しています。だからこそ特に受験生には、毎回の小テストを大事にしてほしいと思います。

何かを成し遂げるために、うまい方法などありません。今この瞬間を大事にして、目の前にあるものに対して全力投球する以外方法がありません。一回のテストを大事にする。一回の授業を大事に

する。今日一日を大事にする。この積み重ねが、明日の自分を作り、そして自分の目標につながる。と考えて、来年の受験までずっともらいたいと思います。(白石)

ロス・ゲイン

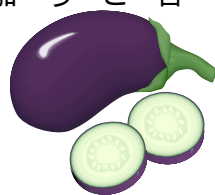
最近、お隣さんから余ったプランターをいただいたので、ベランダでネギやヨモギを育てている。お隣さんのプランターには茄子があり、八月に何本かいただいたので、茄子のチャンプルーを作って美味しく食べた。そのときに秋茄子を作るための剪定も教えていただいた。今年は冷夏で秋茄子は出来が良くないだろうとのことだが、しっかりと紫色の花が咲いている。来年は自分のプランターに茄子の実がなるようにしたい。

ところで、私は子どもころ茄子が大嫌いだった。カレーに入れてみても、ぬか漬けにしても、口に入れたあと飲み込めなかった。しかし、20代になって知人宅でご馳走になったとき、周りの絶賛の声に押されて茄子の煮びたしを口にしたときから茄子の虜になり、それから、茄子は好んで食材で使うようになった。

このように、嫌いだったものがむしろとても大好きになる、という経験は誰でも持っていると思う。もしくはそういう経験を誰かから聞いたり、心理学用語ではロス(非好意的)・ゲイン(好意的)効果といい、嫌いなものを好きになると、もともと好意的だったものよりもさらに好意的になる。これは対人関係でも同じことが起きる。ちなみに私と私の親友は出会った当初、お互いに大嫌い

一年ほど目も合わさなかったが今では笑い話となっている。

今、受験生で苦手だからと逃げていく教科がある方いませんか？ 苦手だからこそ、より好きになることができる大チャンスー正直にいうと私も英語という教科が苦手で、茄子同様、何度も何度もチャレンジし、今でもアメリカのニュースサイトの要約文を一日一つは目を通したり、創学舎のS先生にフォニックスを教わったり、苦手なままでないようにしている。是非、この受験を通して苦手なことに取り組んで、ロス・ゲイン効果を体感してほしい。(座安)



合理性・気迫の欠如

一学期が始まり、もう一ヶ月が過ぎようとしています。受験生にとっては正念場の季節です。

この時期をいかに合理的に、いかに精力的に乗り切るかが、運命の分かれ目といっても過言ではないでしょう。最近の生徒の様子を見ていて感じることをいくつか述べてみたいと思います。

第一に、やるべき事柄がたくさんあり過ぎて何をやらねばよいか悩んでいる生徒が目立つように思います。あれもやらなければ、これもやらなければ、と考えているだけで実行の伴っていない人です。話を聞いてみると、学校の勉強もやらなければならぬし、塾の宿題もあるし、これでは自分の受験勉強の時間がとれない、どっしらいいでしょつかという内容です。誠に情けない限りなのですが、思い当たる人はたくさんいるのではない

でしょうか。考えてみてください。どうして学校の勉強や塾の宿題が受験勉強と別物なのでしょうか。すべて自分の勉強であり、受験生ならばそれが受験とつながるはず。自分の受験勉強といふと、学校でも塾でも使っていない新しい問題集を開けてやらなければならないなど、とんでもない錯覚を起しているのです。塾の授業で、要点をまとめられ、考え方を教えられ、方向性は示されています。後は、いかに自分なりにそれを取り込んで実行するだけです。何のために塾に通っているのですか。水先案内人としての塾を利用しないでどうするのですか。思い当たる人は大いに反省し、時間の無駄をなくすことです。少なくとも授業で指示された課題を、能動的に自分の頭を使ってこなしている人は成績が伸びているはず。指示された課題すらこなせない人間がどうして効果的な勉強ができませんか。もっと合理的に考えて下さい。

第二に気迫の欠如です。時間がない時間がないと言っている割には、緊迫感のかけらも感じられない人がいるのはどういふことでしょうか。本当に自分の目標を達成したいと願っているならば、もっと気迫が感じられるはず。第一の合理性もなく、第二の気迫もなくただ漫然と過ごしているのでは成果など期待すべくもありません。それどころか、合理的であるべきところでは精神論を發揮し、精神力の必要なところでは冷めた感情をもっている人がいるのではないのでしょうか。それでは本末転倒です。今からでも遅くはありません。ここで少し自分のことを考えてみてください。(村上)

あと一ヶ月ほしい

「あと一ヶ月ほしい」毎年一月・二月になると多くの受験生がいうセリフです。何度いってもやんなかった生徒が、やっと本気になって動いて手応えを感じ始めた。だからこそいえるセリフです。そして、このセリフの意味する所は、「あと一ヶ月あれば合格できる。」ということ。多分これは正しいと思います。そしてそして、現実には「その一ヶ月」はもう手に入らない。それでも、高校入試では、直前の追いこみで半分の生徒は志望校へ押し込めますが、大学入試ではムリ。これは分かっています。おいて下さい。

実は、その一ヶ月は、きみ達の一日の過ごし方の工夫でうまれます。きみが今日無駄にした時間はどれくらいありますか。友達とダラダラ話したり、ポツとしたりした時間を合わせれば、毎日一時間にも三時間にもなるのではないですか。毎日二時間ムダにして、九月・十二月の約百二十日間で二百四十時間。これがあと一ヶ月の正体です。いいんですよ。きみの人生だから。いいんですよ。きみの受験なんだから。ただ、覚えておいて下さい。「達人」はストップウォッチを使って、勉強時間を記録すると言っています。成功は、そういう工夫と心掛けの報酬だということ。もしきみがあと一ヶ月「を手に入れたらと思うなら、今日からリセットです。まだ間に合います。まだ時間は十分に残されています。さあ、どうする？」

(小林(健))